

「平和ってどんなこと？」

大井バプテスト教会付属あけぼの幼稚園 園長 加藤 誠

あけぼの幼稚園の2月の暗唱聖句は「愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます」(第二コリント 13:11) ですが、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった昨今の今頃、あるクラスのお祈りの際に年中の女の子がこうつぶやいたそうです。「世界中の人たちがこの御言葉を知っていたら戦争は起こらないのにね」。本当にそうです。神さまは愛と平和の神で、私たち人間がお互いに殺し合うことを一番悲しんでおられること。愛と平和の神さまが世界中の一人ひとりと一緒にいてくださることを知っていたら、避難する市民の列に砲弾を撃ち込むことも、子どもたちが入院している病院に爆弾を落とすこともできないはずですが、けれども私たち人間はそれができてしまう。本当に愚かで悲しいことです。

大井教会の聖書日課(一日一章)ではちょうど今「士師記」を読み進めていますが、毎日のように戦争で人を殺す話ばかりで、暗澹たる思いにさせられます。どうして人はこれほどまで好戦的で残忍になれるのだろう。「士師記」の人々は自分たちの命と暮らしを守ってくれる「王」を求めては失敗します。なぜか。

「王」が神の前に自らの小ささと弱さを自覚しているうちは良いのですが、「王」が自ら神になりだした途端に悲惨を生み出していくのです。人間は「王」となって人びとを幸福に導くことはできない。ただ主なる神のみが私たちを命と幸いに導く「王」になりうる。これが「士師記」のメッセージなのでしょう。

昨夏のあけぼの幼稚園の年長サマーキャンプのテーマは『愛と平和の神さま』でした。神奈川県相模湖近くの施設に出かけて、神さまが造られた自然をからだいっぱいを感じながら、聖書の神さまの愛と平和のメッセージを聴き、みんなで考える時間を持ちました。

グループ活動では『へいわってどんなこと?』の絵本を読みました。絵本作家の浜田桂子さんが中国と韓国の作家にも呼びかけて対話を重ね、「どの国の子どもたちも平和をつくりだす希望を感じられる絵本を」と祈り願い、三年がかりで

完成した絵本です。

「へいわってどんなこと?」「おなかがすいたらだれでもごはんがたべられる」「ともだちといっしょにべんきょうだってできる」「みんなのまえでだいすきなうたがうたえる」「いやなことはいやだって、ひとりでもいけんがいえる」「わるいことをしてしまったときはごめんなさいってあやまる」「どんなかみさまをしんじてるかみさまをしんじなくても、だれかにおこられたりしない」…。

単に「戦争をしない」「ケンカをしない」と教育的な結論を押し付けるのではなく、いろいろな視点から「へいわってなんだろう?」と考えながら読み進めていくと、最後は「へいわって、ぼくがうまれて、よかったっていうこと」「きみがうまれてよかったっていうこと」「そしてね、きみとぼくはともだちになれるっていうこと」という言葉で結ばれていきます。

グループ活動で子どもたちはそれぞれ「ぼくたちわたしたちにできること」を考えてハート型の色紙に書き込み、オリエンテーリングで集めた地球のパズルの周りに貼り付けました。「みんなとおもいきりあそぶ」「はなをおらない」「かみさまにおいのりでつながる」「みずをたいせつにする」などなど、子どもたちなりに考えて書かれた言葉に心があたたかくなりました。

私たちバプテスト教会は、信仰者一人ひとりの主体性、個性の違いを尊重するグループであり、上の絵本にあったように「一人でも意見が言える」「どういう信仰であろうと怒られない」グループです。対話を大切にするので合意形成にとっても時間がかかり忍耐と祈りが求められるのですが、そもそも「平和」そのものが「短気では決してつukれない」、「こちらの『正論』で相手を説き伏せる形では生まれない」「自分と異なる感性や考えをもつ相手を受けとめ共に歩む忍耐と祈りなしにはつukりだせないもの」であり、「愛と平和の神さまにつながることは不可能なもの」です。

「世界中の人が愛と平和の神さまを知っていたら戦争が起こらないのにね」。神さまの御言葉を学んだ子どもたちは何が一番大切なものであるかを知っています。「**本当**にそうだね。そういう世界を創る責任が僕たちにあるね」とまっすぐに言える私たちおとなでありたいと心から願います。

日本バプテスト保育連盟の歴史

日本バプテスト保育連盟(通称:バ保連)は、日本バプテスト連盟発足直後第4回連盟年次総会(1950年)で結成が決議されました。

当初、幼稚園・保育園の開設や設備(ピアノ等)充実の補助等を「フォーリミッショナード」(American Board of Commissioners for Foreign Mission)から受ける為の仲介的な働きを行っていました。

その後、幼児教育充実発展に伴い学校法人化の課題等に関わり今日に至っています。

2022年度役員

- ・ 会長：田中秀一 シオン山教会
(北九州市 愛の園保育園 園長)
- ・ 副会長：久保田信人 和歌山バプテスト教会
(和歌山市 和歌山ひかり幼稚園 副園長)
- ・ 役員：石垣慶子 仙台基督教会
(仙台市 仙台バプテスト教会幼稚園 園長)
- ・ 役員：中島美香 目白ヶ丘教会
(新宿区 目白ヶ丘幼稚園 園長)
- ・ 事務局：中條信治 宮崎キリスト教会
(宮崎市 みくに幼稚園 副園長)
宮崎市吉村町北原 1405-15
TEL0985-29-5451

ご支援を頂ければ幸いです

日本バプテスト保育連盟は、イエス様が大切にされた最も小さきこどものために働かれる保育者の研修や情報交換、情報提供のため、各園からの会費によって運営されています。

我々の理念にご賛同いただき、運営に対する献金をお献げ頂ければ幸いです。

☆振込先・ゆうちょ銀行

記号：17470

番号：83555851

・他行から

店名：七四八(店番748)

普通：8355585

・名前：日本バプテスト保育連盟
(ニホバプテストホイクイソメイ)

・祈りの課題

- ①幼な子と保育者の救いのために。
 - ②保護者に子育ての喜びと安心を。
 - ③若者をキリスト教保育に送り出す。
- 皆さまの祈りに加えて頂ければ幸いです。

お知らせ

・2月14日(火)2022年度第3回日本バプテスト保育連盟設置者園長協議会(オンライン)を開催しました。

当日は13園から21名にご参加頂きました。斎藤信一郎日本バプテスト北九州キリスト教会牧師から「キリスト教保育と二人三脚」と題して奨励をして頂きました。

また内藤幹子日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会 副牧師「バプテスト、一丁目一番地」と題してバプテストを学びました。

発題のあと、グループに分かれ、園の課題など話し合う時を持ちました。参加いただいた皆様、心より感謝いたします。

2023年度も設置者園長協議会を開催します。8月22日には日本バプテストシオン山教会にて、総会と設置者園長協議会を行ないます。

その際には、教会の方々もご参加いただけたら幸いです。

・当連盟顧問、麦野賦先生がお怪我により療養中です。一日でも早い回復をお祈りください。

めぐみのその幼稚園

～祈りに支えられて～

「めぐみのその」は子どもたちが豊かな神さまのめぐみの中で育ってほしいという教会の祈りから設立され、今年で 63 年を迎えました。私たちは子どもたちが豊かな個性と能力を十分に発揮し、自信と自立と自発性を持てるように教育・保育に当たっています。また、神さまの愛を教え、命の大切さと優しいところを育てることに力を注いでいます。そのため、めぐみのそのは聖書に基づき、子どもや保護者、教師が共に育ち合う家庭的な学びの場所となっています。

一人ひとりが輝くめぐみのそののクリスマスページェント。年齢によってセリフの量の違いはありますが、どの子もその場その場でしっかりと自分をアピールしてくれます。それぞれの役は希望制で希望が重なった子はじゃんけんをします。そこには親の思い、教師の思いは入りません。本人と神さまだけが知っているのです。小さな子羊さんにもそれぞれに希望を聞きます。「こひつじ①がいです。」や指で②をしてそれぞれに希望を教えてください。小さなお友だちには出番の前にそっと声をかけ、手を繋いで促す。皆で助け合いながら作り上げるページェントは優しさが溢れ、クリスマス会当日もたくさんの人の心を温かくしてくれました。私自身、めぐみのそのを 28 年前に卒業しましたが、その頃から変わらないセリフやイントネーションを懐かしく感じます。今では多くの卒業生が親となり親子 2 代、3 代で楽しく園に通ってくれています。



バプテスト保育連盟唯一の認可外施設とはなりましたが、全国のバプテスト保育連盟に連なる園の皆さまの祈りに励まされ支えられて、いかされていることに感謝です。

めぐみのその幼稚園園長 丸田恵美



子どもたちの成長、保護者や教師の関わりをお互いに感謝する感謝会。保護者はゲームやダンスの出し物をし、子どもたちと教師でおでんを作りました。3 年ぶりに良き交わりができ、感謝。



月曜礼拝。神さまのお話を聞き、病気でお休みをしているお友だちや、今世界で起きている戦争や災害のよって苦しみ悲しんでおられる方々に思いを寄せて共に祈りを合わせています。